

図書だより

7月発行 第5号
かほく市立高松中学校図書館

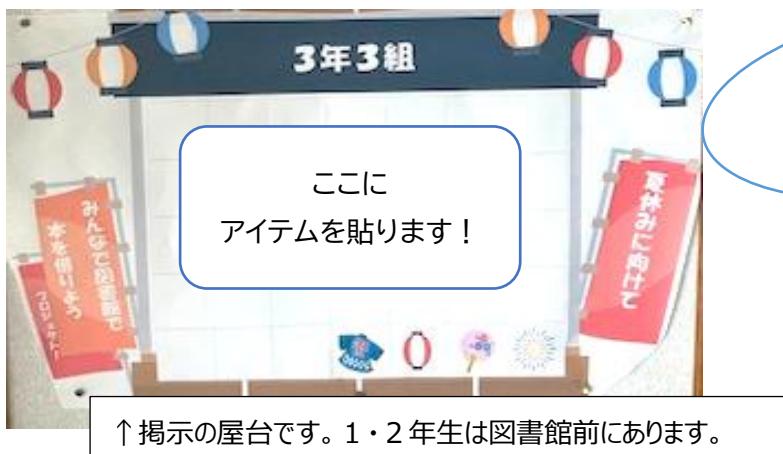
今年もやります「みん借りプロジェクト」7/8~/22!



クラスみんなで本を借りて、夏祭りの屋台の掲示を完成させよう！という前期図書委員によるプロジェクト企画です。

期間中に本を借りた人の出席番号の所に、図書委員が屋台アイテムのイラストを貼っていきます。あなたのクラスはどんな屋台が完成するかな？

そして全員分のアイテムがそろい屋台が完成したクラスを、全校集会で発表し、表彰します！1冊でも借りればアイテムイラストをゲットできますよ！ちなみに夏休みの貸出は5冊までです。



「図書館を使った調べる学習コンクール」優秀作品展示中

夏休みの課題として、1年生は、「科学作品」か「図書館を使った調べる学習コンクール」どちらかにチャレンジすることになっています。図書館前に、昨年までの優秀作品を展示しているので、ぜひ見に来て下さい。

また昨年の優秀作品は、かほく市中央図書館のHPでも見ることができます。先輩方はどんなテーマを調べ、どんな風にまとめているでしょう。チェックしましょう！

併せて、中学生におすすめのテーマを、掲示してみました。参考にして下さい。



夏休みにおすすめのBOOKS！！



「ある晴れた夏の朝」 小手毬るい(偕成社)

戦争を日本側に立って書かれたものは多数あれど、この本は日本人作家による、アメリカ側の視点から書かれた珍しい本。

アメリカの8人の高校生が、広島・長崎に落とされた原爆の是非をディベートすることに。肯定派、否定派、それぞれの立場から議論されていく中、真珠湾攻撃、日中戦争、ナチズムなどについても意見が交わされる。あの戦争は一体何だったのか。みなさんは、肯定派の意見を聞いて、何を思うかな。



「考えたことなかった」 魚住直子(偕成社)

ある日、中2の颯太は祖父母の家に行く途中、ネコに声をかけられる。「わたしは、未来のおまえなのよー。」と。ネコによると、このままだと将来の俺は、酒を飲み過ぎて孤独なまま病気になって死ぬという。誰かのいたずらに違いない、最初はそう思った颯太だったが…。

今まで学校や部活に一生懸命でいれば、家のことは、母と妹がやってくれた。祖母はいつも甘やかしてくれる。それが当たり前だと思っていた。家族は協力し合うべき？そんなことは分かっているけれど。ネコが現れてから、颯太は今まで考えたことがないことを考え始めるようになっていく。



本で日本を、世界を冒険しよう！

「JK、インドで常識ぶっ壊される」熊谷はるか(河出書房新社)

「深夜特急」沢木耕太郎(新潮社)、「わしら怪しい探検隊」椎名誠(KADOKAWA)



中学生の今、日本世界の各地に行くことは、なかなかできない。でも本なら旅ができる！しかも身体を張ることもなく、安全に。

「JK…」は、父の仕事の関係でインドに行くことになったJKのわたし。ネットでインドを検索してはみたけれど？！常識が揺さぶられる。

「深夜特急」シリーズは、なかなか刺激的な1冊。1巻目は香港・マカオ編。「わしら…」を書いたのは、中2の教科書にも掲載されている『アイスプラネット』の作家“椎名誠”さん。彼は、やってみたいことを楽しみながら次々実行していく天才。お酒を飲むことが好きなおじさん達が、日本各地でキャンプをしながら体験したことがユーモア交えて書かれている。みなさんもシーナ隊長に続こう！

夏に読みたいミステリー・ファンタジー



「真夏の方程式」 東野圭吾(偕成社)

夏に読みたいミステリーから1冊。物理学者、湯川学を中心としたガリレオシリーズの第3作目で、映画にもなった作品。少年時代の楽しい夏休みとなるはずが、殺人事件に遭遇してしまう、小学生の恭平。真夏の方程式は解けるのか。



「神さまのいる書店」 三萩せんや(KADOKAWA)

自分の居場所がないと悩む高2のヨミ。夏休みにバイトした「まほろば屋書店」は、魂の宿った、生きた本を扱う本屋だった！ほのぼののファンタジー。

